

「御霊に属することを考える」

ローマ8：5－8

堀田修一 23・6・18

I 肉（自分の心の罪の性質）に従う者の特徴

「肉（自分の心の罪の性質）に従う者は肉に属することを考えます」：5。

1. 「肉に属すること」＝神に喜ばれない罪、悪。「肉（心の罪の性質）のわざは明らかです。すなわち、淫らな行ない、汚れ、好色、偶像礼拝（天地の造り主なる神ではなく神が造られたものを拝む罪の根本）、魔術、敵意（憎しみ、恨み）、争い、そねみ（熱心から転じた「競争」「張り合い」「嫉妬」）、憤り（怒りの爆発）、党派心（真理のためではなく、自分の利益のために分かれる）、分裂、分派（自分で選んだ意見・説、異端）、ねたみ（他人のものをうらやましがり、それを奪い取ろうとする思い）、泥酔（深酒）、遊興（不品行に繋がる悪い遊び、悪い遊びにはまる）」（ガラテヤ5：19－21）。

2. 肉に従う者は罪を行いますではなく、肉（罪の性質）に属することを「考えます（原語：思う、考える）」とあるのには深い意味があります。私たち人間が、悪、罪、悪い行いをする時、外側に悪い行いが出る前に、心の中の悪い考え、思いから既に罪、悪が始まっているという聖書の真理です。主は、外側の行いは立派だと思いがっているパリサイ人や律法学者に、こう言われました。「人（の心、考え）から出て来るもの、それが人を汚すのです。（心の）内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます」（マルコ7：21）。ここでも、主イエスが、自分たちは、律法を行いとして立派に守っていると思いがっている人々に、「あなたがたの行いは悪い」と言われず、まず「あなたがたの心の中の悪い考えから罪や悪が出て来て人を汚すのです」と言われています。つまり、自分の心の罪を認め主を信じない人は、心に聖霊により新しくされる、新生、新しいいのち、いのちの御霊の原理・法則・支配（神の国＝神の支配）をいただくことができず、肉＝自分の心の罪の性質の支配のまま、肉（罪の性質）に属することをもっぱら考え、心と思いの領域で罪を犯し始めています。それが時満ちて、外側の罪、悪の行いとして現れるのです。主は言われました「人の心の中から、悪い考えが出てきます」→「淫らな行ない、盗み、殺人、姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、これらの悪は、みな内側（罪人である人間の心、考え、思い）から出て来て、人を汚す（自分と他人を汚す、悪影響を与える）のです」（マルコ7：21－23）。

3. 「肉の思いは死です」：6。肉（心の罪の性質）の思いは、神に喜ばれない罪、悪の思い。その悪の思い、考えそのものが罪であり、その思いから生まれる悪、罪の行いの報酬は死＝地上でも神から離れ、死んだ後も神との永遠の分離、永遠の滅び、永遠の苦しみという死。「いのちの書に記されていない者（地上で自分の罪を認めず主を信じなかった人）はみな、火の池（永遠の苦しむ火と硫黄の池）に投げ込まれた」（黙示録20：15）。

4. 「なぜなら、肉（人の心の罪の性質）の思いは神に敵対するからです（神への恐れがなく、神なんかいない、自分の力で生きていくという高ぶり。本当は、神に生かしていただいている恵

みに気づかず感謝もしない高ぶり)。それは神の律法(神のみこころ)に従いません(自分の思うがままに従っていきたい)。いや、従うことができないのです(かりに神に従おうと思っても、神の律法(みこころ、みことば)に従う力が自分のうちにはない、無力なすべての人間です)。

5. 「肉(心の罪の性質)のうちにある者(罪の性質の奴隷、罪に縛られている者)は神を喜ばせることはできません」: 8. 私たち罪人は、主を信じ、聖霊により心が新生し、新しいいのち、考え、思いが与えられなければ、神を喜ばせることは決して考えず、自分の心の欲望を喜ばせる事ばかり考えているのです。これは、主を信じて内住の御聖霊により変えられる前の私たちの姿です。主を信じ御聖霊により少しずつ、神を喜ばせることが喜びとなって行く恵みを感謝しましょう。

II 御霊に従う者の特徴と恵み

1. 「御霊に従う者は御霊に属することを考えます」: 5。

御霊に従う者とは、御霊が心に働かれ、御霊に自分の罪と主の十字架の意味を心に教えられ、御霊が、主を信じる信仰を与え、信仰告白に導かれ、主の救いをいただいたキリスト者のことです。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言う(信仰告白)ことはできません」(Iコリント12:3)。キリスト者の心に住んで私たちと交わって下さる御霊は、私たちの心、思い、考えを新しくし、「御霊に属すること」=「神の栄光、神のみこころ、神の喜ばれること、聖書の真理」を考え、御霊、みことばに従いたいという志を与えて下さるのです。

「神(三位一体の神、聖霊なる神)はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です」(ピリピ2:13)。

2. 聖書は、良い行いの前に、聖霊により御霊に属すること、神のみこころ、神の恵み、神ご自身のことを「考える」ことを強調しています→「私たちが告白する、使徒であり大祭司(神と人の仲介者、とりなすお方)であるイエスのことを考えなさい」ヘブル3:1。「もしあなたがたが、キリストともによみがえらされたのなら、上にあるもの(神ご自身のこと、天での神の祝福)を求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるもの(神とキリストご自身、神の恵み、祝福、耐え忍んだ者への神の報い)を思いなさい」コロサイ3:1, 2。「物の考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい」Iコリント14:20。考え方において大人になるとは、物事を幼子のように狭く考え、思い煩いを大きくし、神の視点を忘れるのではなく、霊的な大人として、試練や苦しみの中で、すべてを御手に握っておられる偉大な神の事を考えないで「もうだめだ」と失望するのではなく、試練の時も、神を見上げ、偉大な神のことを考え、視野に入れて、「この苦しい状況の中でも、神は共におられ、脱出の道(解決の道)を備え、すべてのことを働かせて益としてくださる」と考え、捉え、失望せずに祈りましょう。「いつでも祈るべきであり、失望してはいけない」ルカ18:1。全世界の造り主の神は、人間に正しく研究する能力を与えられました。現在、ある分野の研究において、「感情をコントロールすることは難しいけれども、物事の考え方、捉え方を健全なものに変えるときに、感情も変わる」ということが解明されています。神の真理である聖書は、二千年前から、その事実を語っています。「心(原語:知能、思考、理解力、分別)を新たにする(御聖霊により)ことで、自分を変えていただきなさい」ローマ12:2。聖霊による聖書のみことばの正しい理解により、私たちの考え方が物事を神の視点を入れて考える

者に変えられ続け主の品性に変えられ続けるのです。

3. 「御霊の思いはいのちと平安です」ローマ8：6。私たち人間は、神から離れていますと、闇と絶望と不安の思いに支配されます。しかし、主を信じる私たちの心に住まれる聖霊がくださる神のこと、神の恵みを深く思い、考える事は、いのちと平安を与えます。御霊は、私たちに、自分の罪を認める思いと主が自分の罪のために十字架で死に復活されたことを信じる思いを与え、救いに導かれ、神は完全な罪の赦しと「永遠のいのち（神との永遠の交わり）」を与えてくださいます。主を信じた後も、試練や苦しみがありますが、御霊は、神がすべてを益としてくださる恵みの事実を思い出させてくださり、この世にはない平安（困難の中でも主が共におられる平安）を与えてくださいます。私たちの心に結ばれる「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」ガラテヤ5：22, 23。

感謝！